

医学系研究に関する情報公開および研究協力をお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	当科における新生血管加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 硝子体内注射併用光線力学療法(PDT)の治療成績
研究責任者	尾花 明
研究実施体制	聖隷浜松病院眼科で治療を受けられた方を対象に、聖隷浜松病院眼科で解析します。
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2026 年 3 月 31 日
対象者	2016 年 2 月～2023 年 8 月の間に、聖隷浜松病院眼科黄斑外来で、血管内皮増殖因子阻害剤の硝子体内注射と光線力学療法(PDT)の同時治療を受けられた方。
研究の意義・目的	血管内皮増殖因子阻害剤の硝子体内注射治療で十分な治療効果が得られない加齢黄斑変性に対しては、硝子体内注射と光線力学療法(PDT)の同時治療が一定の効果を示すことが、これまで医学論文で報告されています。当科でもこれに従って本治療を行っています。今回はこれまで当科で行った症例の治療成績を詳しく解析し、どの程度の効果が得られるか、副反応などの問題はないか、今後、どのような症例に行えばよりよい成果が得られるか、などを検討します。
研究の方法	研究デザインは後ろ向き観察研究と呼ばれるもので、治療を受けられた方の診療録を解析します。これまでの情報を分析しますが、この研究のために新たに検査を追加することはありません。患者の属性(年齢、性別、加齢黄斑変性の病態、治療歴など)と、治療前後の視力および網膜形態変化を調べます。 数値データは統計学的解析を行います。分析に使用したデータは、パスワードでロックされた聖隷浜松病院内に設置の PC に保管されます。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 眼科 (氏名)尾花 明 TEL:053-474-2222(代表) 眼科外来 9:00～17:00 平日